

第2回 嘉麻市中小企業振興審議会 会議要録

審議会の名称：第2回嘉麻市中小企業振興審議会

開催日時：令和4年2月25日（月）9時30分～11時30分

開催場所：リモート（ZOOM）

公開又は非公開の別：公開

非公開の理由：（会議を非公開とした理由）

出席者：（委員）

日高委員 澤村委員 大里委員 中村委員 大田委員
益田委員 中野委員 吉安委員 大野委員 柳瀬委員 稲永委員

（事務局）

産業振興課 課長 篠崎慶太 課長補佐 中島栄治
商工係長 仲島京子 商工係 白石莉菜

（欠席者）

坂本委員

傍聴人数：0人

議題及び協議の内容

[議 題]

1. 嘉麻市中小企業振興基本計画の取り組み状況について(答申)
2. その他

[議 事]

1. 嘉麻市中小企業振興基本計画の取り組み状況について(答申)
 - ・事務局より前回審議会の答申進捗状況を説明。
 - (会長) 本日の審議会では答申の内容について具体的な議論をしていただく。そして今年の答申をまとめる。令和2年度の答申をアップデート・強化し、令和3年度の答申を作成していきたい。前文に書いてある関係機関が連携して基本計画の着実な実行に取り組んでいく事を強調したい。
 - (委員) 地域内の経済循環の促進が重要である。田川市などは80%を超えているが、嘉麻市は60%となっている。もう少し強化したり指定管理の条件を引き下げたりと、嘉麻市内の業者で対応する事が必要ではないか。休耕地活用のワンストップ窓口や移住定住を一元的に推進する課の新設の部分が「内部調整ができていない」とは何か気になる。
 - (事務局) 地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値が労働者や企業の所得として分配され、その後消費や投資として支出され、再び地域内の企業に還流する流れを地域経済循環という。地域経済の循環の過程の中で地域外にお金が出た場合、地域の経済が縮小する可能性がある。嘉麻市内の地域経済循環率は60%前後であり、これは支出の面で消費や投資が市外に流出している状況が数字に表れている。市内の事業者が受注できるものがあれば、循環率はあがってくる。
 - (会長) 循環率をどのくらいまであげるべきなのか、そのためには何をすべきなのかが必要。嘉麻市・飯塚市などとの連携を考えると、必ずしも嘉麻市内だけで閉じこもってしまうのがいいのかを考えないといけない。
 - (事務局) 各自治体で産業構造が違うため、類似団体である田川市の85%が一つの目安となるのではないかと。市の発注の仕方として大きなゼネコンに一括で発注するのではなく、分離分割の発注の方式なども検討しなければならない。
 - (委員) この話題が一番大事になってくると思うため、市の考えを詳しく聞きたかった。
 - (会長) 審議会として市が発注できる分は市に要請しないとけない。
 - (委員) 市の職員が嘉麻市中小企業振興計画を理解して情報共有しているかが問題。市内の業者があるのに、他地域の方が受注を受けてやっている。市内の業者を使ってほしい。産業振興課から積極的に計画の説明をし、市内事業者が発注をしていただきたい。
 - (会長) 答申の意見としていれるべき事だと思う。
 - (委員) 武雄市の図書館みたいにユニークな奇抜なアイデアを持っている方が市内にいれば市内で受けてもいいが、市外の方がこういう考えで施設を使わせてくださいとの事があれば市外の方でもよい。人が集まるのであればそれでも良いと思う。
 - (会長) 嘉麻市の循環率を高める事は重要だが、地域だけで閉じこもっていていいのか。地元貢献度の高いやり方であれば、知恵のある外部との企業と連携して取り組みを進めるのも必要なやり方ではないかと思う。
 - (委員) 市内の企業同士で発注などを行えば良いと思う。市内事業者の方がコスト

が高い場合でも市内の事業者を使うのか。

- (事務局) 市の発注については、自治法の中で定義されているためコストの関係がある。市内事業者育成の観点から指名競争入札制度をとっているため登録された業者の中から最安の業者を選考する。登録の業者を市内業者だけに限るのは現状難しい。工事の内容によっては地域の事業者に絞るなど現在もやっている。市内事業者を優先しなさいというのは経済産業省からも市内事業者育成の通知があっている。法に触れない範囲で市内事業者の育成を行っている。例として義務教育学校の建設は、市内事業者を入れた JV での発注を行った。そういった制度を活用しながら市内事業者を育成していきたい。すべての市の発注を市内事業者だけにしていくのは現時点では制度上難しい。
- (会長) 市内事業者育成を念頭において振興計画等も十分理解した上で発注を考えてほしい。外部の知恵のある企業との連携についても答申にいれるべき事だと思う。
- (委員) 内部調整ができていないというのは、担当課の調整ができていないという意味か。
- (事務局) 休耕地であれば農業委員会、移住定住は地域活性推進課と受け持つ担当課が違う。
- (委員) 昨年の答申の報告をする際、移住定住を推進する課の新設をお願いしたが市長の考えを知りたい。
- (事務局) 移住定住の専門課の設置について具体的な指示はあっていない。人口減少については市の最重要課題であるため臨機応変に対応していきなさいという指示は受けている。移住定住の補助金が各課に散らばっているため、答申にあった一つにまとめた方が良いというのは共通認識している。今後の組織再編の際に課の新設を考えていきたい。後押しする意味でも答申の中に再度入れていただきたい。
- (委員) 移住定住の窓口は(株)嘉麻スタイルとなっているが動きがあっているのか。
- (事務局) 窓口の相談業務については当課が所管している為、業務を嘉麻スタイルに委託している。
- (委員) 組織編制の時では遅い。移住定住の促進をするためには早急な措置がある。大分県の例では、市長直轄で新しい課を新設している。嘉麻市も市長命令で新しい課ができると思う。
- (事務局) 意見があった事を市長に伝える。
- (会長) 内部調整ができていない休耕地・移住定住は、市の中で担当が分散していて、市全体に関わる事でもあるためなかなか対応できない。審議会としては強調して答申に書き込むべきである。
- (委員) 今年のカマデポ事業で電子ポイントを使ったため、来年度のプレミアム商品券でも電子ポイントの使用を考えているが市の考えを聞きたい。
- (事務局) 市内にキャッシュレスを普及させる事が主たる目的であるため、単年度で終わらないよう来年度もキャッシュレスが普及できるような仕組みを考えていきたい。どういった仕組みが妥当か妙案は持っていないが、商工団体とインセンティブが働くような仕組みを考えながら商品券事業をやりたい。
- (委員) カマデポ事業の効果はあったのか。
- (事務局) マイナンバーカードの取得目標を 60%としており、50%の申請があった。県内ではかなり高い数字になっている。
- (会長) 嘉麻市は隠れ DX 先進地である。部分的ではあるが他にない取り組みをやっている。もう少し強調しさらに後押ししていけたらよい。答申の中に DX 化 ICT 化などの表現を加えた方がよい。先進的な取り組みを行っている事に関係者しか知らないのも問題だと思う。
- (委員) 先進的な企業があればその企業が引っ張っていくのが良いのではないか。

(株)嘉麻さんにやっていただけて活躍していただけたら良いのではないかと思います。

(委員) 空き家バンクの取り組みのように休耕地も登録できる制度があったら良いのではないかと。

(事務局) 休耕地は農地になるため、農地のバンク制度は農業委員会が行っていると思う。農地を借りる時は許可をもらうなどの手続きがある。休耕地については農業委員会の制度を利用していただく。

(委員) 農業委員会とのパイプを作ってほしい。

(会長) 産業振興課は当課でやるには言いにくいと思うが、審議会の答申では所管課を越えて連携してやる体制を作るというのを加える。移住定住等と一緒に窓口を一つにまとめないと対応しにくいのではないかと。

(委員) 休耕地ができていく根本的な理由は、高齢化などにより山間の田んぼの草刈りができないなどの問題がある事である。抜本的な方策を考える必要がある。今後はロボットや GPS を利用して休耕地や山際の土地の草刈りなどをしたり、他地域がやっていたら参考にしたりと市の政策を考えた方がよい。

(会長) 中小企業の技術を活用する場として使う。ベンチャー企業が田んぼの管理を行うなどの中小企業の知恵の活用を検討する。

(委員) 嘉麻市が他にないおもしろい事をやっていたら注目をあびる。ベーシックインカムをやったらおもしろいと思う。例えば芸術的な学校を出た子が有名になるまで補助してあげる。時間はかかると思うがやってみたらおもしろいと思う。ヒュッゲのツアーを募集しても集まりにくいと思うが、体験してみるとすごく満足度の高いツアーとの事。応募者を集める取り組みが盛んになると流行していく。

(会長) ベーシックインカムは中小企業振興とは違う話になる。しかし、おもしろい事をしようとしている若者・新規事業者に対する支援・奨学金などの方法もあると思う。他地域では市独自の奨学金制度を行っているところもある。新しい事・面白い事を考えている方に対する活動資金の支援を行う。他地域がやっていないツアーなどを積極的に表にだしてはどうか。

(事務局) 2/12 に実施したヒュッゲツアーについて 15 名の定員に対して 70 数名の応募があった。若い女性の方に刺さっている印象がある。

(委員) ヒュッゲツアーの参加者は市外か市内か。

(事務局) 市外の北九州市・福岡市の方をメインに募集を行った。ツアー内容は、バスで天神から嘉麻市に来ていただき、大里酒造でお酒を詰める体験を行ったり、nico でシェフを招いて料理を振る舞ったり、森林の中でくつろいだ時間をすごしたりする。

(会長) アウトドアシティ宣言が 11 月に行われたばかりで、「ヒュッゲ」という考え方が浸透していないという問題もある。嘉麻市の観光まちづくりは外部からお客さんを連れてくるというのが活動の大きな目的の一つである。市内でもヒュッゲの普及の取り組みが今から行われるだろう。

(委員) 嘉麻市移住定住起業チャレンジの委員をしており、嘉麻市はユニークな取り組みを行っている。創業支援の一環として、例えば嘉麻市のフルーツを使ったお菓子作りを考えている方などに補助をする制度がある。他では聞いた事のない事業である。金額も張り込んでいるため事業者にとっても助かるのではないかと。

(会長) 市独自の取り組み・ユニークな先進的な取り組みは積極的に PR する事も答申の中に入れてよいのではないかと。

(委員) いろいろな団体が個々でたくさんの取り組みをされて成果をあげているが、それは点であって面にするには中間支援組織を作り、いろいろなところと連携をして嘉麻市のまちづくりをしてはどうか。経営基盤強化について商工会

- では「嘉麻図鑑」を発行しており、このような事例を活用してはどうか。
- (会長) 総括的意見の中に、市内で行っている面白い取り組みを PR する・個々の取り組みを支援する・事例を集めて参考にできるようにするといった項目を一つ増やす。その中に中間支援組織についても入れ込む。
- (委員) 香春町の商工会さんが移転され、小学校の跡地を利用して新たに事業をされている。小倉から企業が移転しシェアオフィスを利用して事業を行っている。テレワークを市役所内で実施しているとあるが、嘉麻市では市役所を一般開放しているのか。
- (事務局) 一般開放はしていない。職員が実験的にテレワークを実施している。
- (委員) シェアオフィスを作り地域外から呼び込むのもおもしろいのでは。
- (事務局) 産業振興課内の別の係でシェアオフィスの整備を考えていた。コワーキングオフィスやワーケーションを呼び込むための設備の整備を、補助金等を使ってできないかと現在検討している。
- (会長) 検討で止まっているため、積極的に実現を目指すことに答申を変更する必要があるのではないか。
- (委員) モデル事業としてやっていただいて、嘉麻市で実現したという事を全国に発信する事に意義があるのではないか。
- (会長) モデル事業になるような内容で積極的に進めるべきと表現を変えてよいか。
- (委員) 実は DX に強い・ヒュッグツアーの応募が定員をオーバーした・中小企業のおもしろい取り組みをされているところがあるなどは強みである。その為 SWOT 分析を活用するべきである。嘉麻市の強みと弱みを共有し、強みの魅せ方を工夫するなどすれば移住や地域循環率にも繋がるのではないか。
- (会長) 先進的な取り組みを認識し、弱みを見つけて改善する。世の中の状況を捉えながら追い風・向かい風を上手く活用して、強みを活かし弱みを改善する取り組みを行わなければならない。次期の計画の中ではしっかり SWOT 分析を行い、隠れた強みを掘り起こして政策に反映させるべき。答申の中に表現を考え書き加える。
- 前回頂いたご意見と今回のご意見を参考に事務局と相談をして、令和3年度
の原案を作成したいと思っている。次回審議会の前に皆さんにお渡しをし、
微調整・最終承認を行う。

次回開催日 令和4年3月23日(水) 13:30～ リモート (ZOOM)